

2025 年度 学校法人 三幸学園 福岡ビューティーアート専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 眞光 涼

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 教育理念・目標

- ・理念、目的、育成人材像など掲げているものの、具体的な指導を実施できていない。また、生徒や保護者が目にする機会が少ない。保護者との連絡アプリを導入し定期的な情報発信を行った。

(2) 学校運営

- ・情報システムについて、昨年度時点では環境を整えることはできた。

(3) 教育活動

- ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)について、短期的な実習は実施されているものの、授業との連動など長期的なカリキュラムの設定・授業進行がなされていないため、就職関連科目を2科目に増やし、スケジュールを細かく設定し指導を行った。

(4) 学修成果

- ・卒業生との関わりが希薄。学校と卒業生とを結ぶアプリの登録を行い、卒業後も連絡を取りやすい環境を整えた。

(5) 学生支援

- ・高校から専門学校へとつなぐ取り組み(職業教育)は体系的には実施できていない。広報関連部署と連携し、昨年度以上に学校見学や高校内説明会へ参加した。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・保護者との連絡アプリの導入はできたものの、発信頻度が少ない。
- ・業界ニーズをタイムリーに把握するための企業などへの積極的なアプローチ、ヒアリングが十分に実施できていない。

② 今後の改善方策

- ・出欠状況報告や学費請求等の事務連絡に加え、学校行事案内、年間予定などの発信を定期的実施する。
- ・企業様への学校行事の案内を積極的に行うとともに、企業様訪問については、訪問だけでなく、訪問内容や目的も含めた目標を数値化し、計画的に実施する。

③ 特記事項

特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・情報システムの環境設定は完了したものの、効率的な運用には至っていない。

② 今後の改善方策

- ・導入しているシステムの特徴を整理し、それぞれの特性に応じた情報発信フローの構築と情報発信時のルールの一斉化を図る。

③ 特記事項

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・在学中の資格取得に向けたサポート体制の強化が必要である。
- ・授業を担当する全講師に対し、教育理念をはじめとした研修等が十分に実施できていない。

③ 今後の改善方策

- ・引き続き新任講師向けの研修は必須で実施する。
- ・対面での受講が難しい講師にも対応できるよう、オンラインやオンデマンドによる研修コンテンツを整備し、受講機会の充実を図る。

③ 特記事項

特になし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・就職率、資格・検定の取得率が前年度を上回る成果には至っていない。
- ・キャリア指導の年間を通した体系的な指導計画の構築が十分にできていない。

② 今後の改善方策

- ・キャリア関連授業(就職対策)のシラバスを見直し、業界関係者からの直接的な指導の機会を設定する。
- ・就職サポートにおける教職員の役割を明確化し、連携体制を強化する。
- ・業界との連携を一層強化し、企業との関係構築および求人開拓を推進する。

③ 特記事項

特になし

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・高専接続(職業教育)の機会への積極参加

② 今後の改善方策

- ・広報関連部署と連携し、高校内ガイダンスへの参加、当校への学校見学体験会の積極受け入れ。

③ 特記事項

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・防災、安全管理に対する体制の整備が十分ではない。

② 今後の改善方策

- ・全教職員を対象とした防災・安全管理に関する研修を実施する。
- ・年間を通じて実施するロングホームルームの機会を活用し、避難経路や避難方法の確認を定期的に行う。

③ 特記事項

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・入学前後のギャップ(実技科目と座学科目の科目数/コース選択時の事前説明会の充実)が見られる。

② 今後の改善方策

- ・入学後に実施する研修プログラムへ講師の参加を促す。
- ・早期に業界理解を促進する為の、体験型授業の実施と通常授業との接続性を意識した教育内容の充実を図る。

③ 特記事項

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

ボランティアや地域連携については受入先からの依頼を中心に実施しており、学校側から積極的に機会を創出する取組みが十分ではない。

② 今後の改善方策

ボランティア・地域連携活動に関する専門知識を持つ教員の配置を行い、積極的な周知と受入後の運営フローの構築を行う。

③ 特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

改めて学校関係者評価委員会という場が、教育活動に対して外部の視点や業界の最新動向、現場のニーズを把握することができるとても貴重な機会であると感じる。学校内だけでは把握が難しい情報を教育活動へ反映するため、今後は学校関係者評価委員会だけではなく、学校行事や特別授業、通常授業時においても現場の方々をお呼びする機会を増やし、さらに充実させていきたい。現場を知るだけでなく、学校や学生についても理解を深めていただく機会を多くすることで、双方の理解や連携した取り組みの創出につなげていきたい。今年度は管理者だけではなく、教員も積極的に学外へ出向き、業界との連携強化に努めていきたい。(眞光副校長)

以上